

西洋建築思想史

1. 古代ギリシャの建築思想
 A) 建築という観念の成立
 B) 建築造形の原理
 C) シュムメトリア
 D) 位置に関する秩序 p167~168
 E) 建築造形の在外的原理 p169~170
 F) ギリシャ人の建築観—まとめ p171

P. 167 位置に関する秩序 小嶋

Taxis・・・造形理論においては、シュムメトリアの原因としておおよそ量的な数的な秩序を言い表す。
 ↑↓

diathesis・・・「場所に関する秩序」を示す原理

⇒これにより善き美しき建築が成立する。

「善き美しき建築」とは？

- ・ シュムメトリアの原理が行き渡る。
- ・ 各肢体が位置的に正しく配列されていて、1つのまとまった全体的な構図をもたらす。

「位置的に正しい配列」とは？

—「肢体のリズミカルな配置」

リズム・・・音楽上の概念で音の抑揚・強弱がかわるがわる現れるような音または音節の配列を意味する。→造形にも使用。

+建築・・・質的に規定され、感性を通じて善美と受け取られる。

↑↓

シュムメトリア・・・建築の形が量的に規定され、理性を通じて善美と理解。

『結論』 ギリシア人は建築造形における価値判断の一部を感性に負わせた。
 ディアテシスはこのような感性的な価値判断を可能にする原理であった。

疑問 p.164 4行目の「ギリシア人は無限定を許さなかった」とディアテシスの原理は矛盾するのでは？

建築造形の在外的原理 p169~p170 L.2 吉田

i. 要約・整理

在外的とは…敷地・材料・構造法・用途・風土・風俗・習慣など

プラトン

- ・ **Kosmos** とは「用に即する秩序の原理」
- ・ 「kosmos+taxis=**khreton**(有用)であり無秩序な家は悪い家である」と指摘

アリストテレス

- ・ **Diathesis** とは「場所による taxis」または「能力や可能性 (dynamis) による taxis」と定義
- ・ **Dynamis** とは「変化の原因、在外的」

造形の領域では

- ・ **Kosmos**=「dynamis による taxis」としての **diathesis** に相当
- よって、コスモスは質的な原理であるといえる

ii. 疑問・解釈

Q. 「dynamis」とは、どんな能力の事なのだろうか？建築に在外的に効果を生み出すものなのだろうか。それとも、能力や機能を建築が如何にして生み出していかを示すものだろうか？

第3・4段落 p.170 L.3 ~ p.170 L.18 伊久

i. 要約・整理

ギリシア建築のうち比較的複雑な機能を持ち、建築造形に外から作用を及ぼす「用」として切実に要求された建物は住家であった。

→建築造形における在外的秩序は住家について論じられた

アリストテレスは住家建築における用を“財物の収蔵・監理”“居住者の健康の保持”“居住者の日常生活の快適さ”の3つのカテゴリーに分析している。

→家政に関する問題であって、建築造形における kosmos なる原理は家政に顕現していると言える

ギリシア人にとって実際の役に立つ家は、そのまま善い家であり美しい家であった。

⇒ギリシアでは用と美は、秩序の原理によって融合されて、未分化の状態にあった。

ii. 疑問・解釈

Q.

建築造形における在外的秩序と内在的秩序の関係性に用の共通点はあるのだろうか。

P.171 ギリシア人の建築観—まとめ 小嶋

理性的なギリシア人・・・あらゆる存在物の形をいつも明確に目で捉え、調和を感受し理解した。

目に見える物象→調和ある形態として意識

あらゆる作品（建築物も含む）→宇宙秩序に参与する1つの物象として制作。

Ex.建築物

1. シュムメトリアの原理を通じて建築の形を理解
 2. シュムメトリアの原理に従って建築を制作
- ⇒よって造物神の作品（天上の星、地上の自然、とりわけ美しい人間の肉体）と関わり合うことができる
 →理性が支配する主知主義的建築観である。
 ※主知主義・・・人間の精神を「知性・理性」「意志・気概」「感情・欲望」に三分割する見方の中で「知性・理性」の働きを重視する哲学・神学・心理学・文学上の立場のこと。
 調和的形を整えること＝幾何学の簡明な命題に従わせること。
 甘く美しい形ではなく厳しく整った形が求められた。
 ⇒ギリシア人の冷厳な、高貴な格に従ったものとして規定する。

疑問

・シュムメトリアの原理に従って制作すれば、どうして造物神の作品と関わり合うことができると考えたか。